（別紙様式）

平成３１年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立南稜高等学校）

（Ａ３判横）
S19

目指す学校像	明るく伸びやかな校風のもと、主体的に学ぶとともに、豊かな心と国際感覚を育み、希望する進路を実現する学校

重点目標	1　自発的な学習習慣の確立と、豊かな学びを実現する教育課程の改善 2　教育活動全般を通じて自律的、主体的に行動できる生徒の育成 3　キャリア教育の充実と、生徒一人一人の希望する進路の実現 4　家庭・地域との幅広いネットワーク作りと、学校からの情報発信体制の充実

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
生徒　　名
事務局（教職員）　　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・隙間時間の活用や復習の大切さは指導しているが、自主的に学習し復習に取組む生徒は４割、隙間時間を活用している生徒は４割に満たない。主体的に学ぶ習慣の確立と隙間時間の活用が課題である。 また、新学習指導要領に基づき、基礎基本と幅広い知識をバランスよく身に付ける、新たな教育課程案を作成する必要がある。	・主体的に学ぶ意欲を育成する。	① 朝自習の時間を有効に活用し、自主的に学習する習慣を身に付けさせる。 ② 隙間時間の活用を指導する。	① 生徒の一日の平均学習時間が、昨年度より増えたか。 ② 隙間時間の活用度４０％以上（昨年度３７．３％）				
		・新学習指導要領に基づく教育課程案を作成する。	① 教育課程委員会及び各教科での意見交換を積み上げる。 ② 大学入学共通テストや一般入試に対応できるカリキュラムを編成する。	① 教育課程委員会及び各教科で共通理解が得られたか。 ② 生徒の特色に合わせた専門科目や学校設定科目を開設できたか。				
2	・生徒指導は充実してきたが、教職員により指導に差がある。全体に落ち着いているものの、一部に身だしなみが不十分な生徒がいる。全体で継続的な指導が必要である。 また、周辺は交通量が多く、事故防止指導も課題である。	・身だしなみ、携帯電話の使用などの生活指導と、交通安全指導を全職員で組織的に行う。	① 生徒指導に関する共通理解のもと、指導に当たる。 ② 保護者協力による登校指導を継続して実施する。	① 共通理解のもと全教職員で、身だしなみ指導と携帯電話指導を行えたか。 ② 登校指導に保護者の方も参加していただけたか。				
3	・進路説明会や講演会などを充実させ、約６割の生徒が進路意識が高まった。その教育効果を持続させ、進路実現につなげることが課題である。 また、進路実績は年々向上しているが、早い時期から、保護者の理解と協力を得て、生徒の第１志望の進路実現につなげることが課題である。	・進路意識を持続させるとともに、生徒の自己管理能力を高める。	① ポートフォリオを活用し、生徒に進路意識を醸成する。 ② 生徒の進路に合った進路行事や講演会等を系統的に行う。	① 生徒の進路意識を継続させることができたか。 ② 生徒の満足度９０％				
		・第１志望の進路を実現させる。	① ニーズに応じたセミナー（講習）を充実する。 ② 生徒対象の進路説明会に保護者の参加を呼びかける。	① セミナー（講習）に関する生徒の満足度８０％以上 ② 保護者の参加率が上昇したか。				
4	・ホームページは随時更新して情報発信しているが、広報の校内組織で運営し、外部から見て魅力に思えるホームページ作りが必要である。保護者の理解を得られる、適時適切なメール配信をすることが課題である。	・広報に関する校内組織の活動を充実させる。	① 組織で実行できるよう、業務内容と役割を整える。	① 業務が個人に偏らず、役割分担できたか。				
		・メール配信を充実させる。	① 保護者会でメール配信システムの広報に取り組む。 ② 保護者が求める情報を発信する。	① 保護者登録数の割合８０％以上 ② メール配信の保護者満足度が７０％以上				